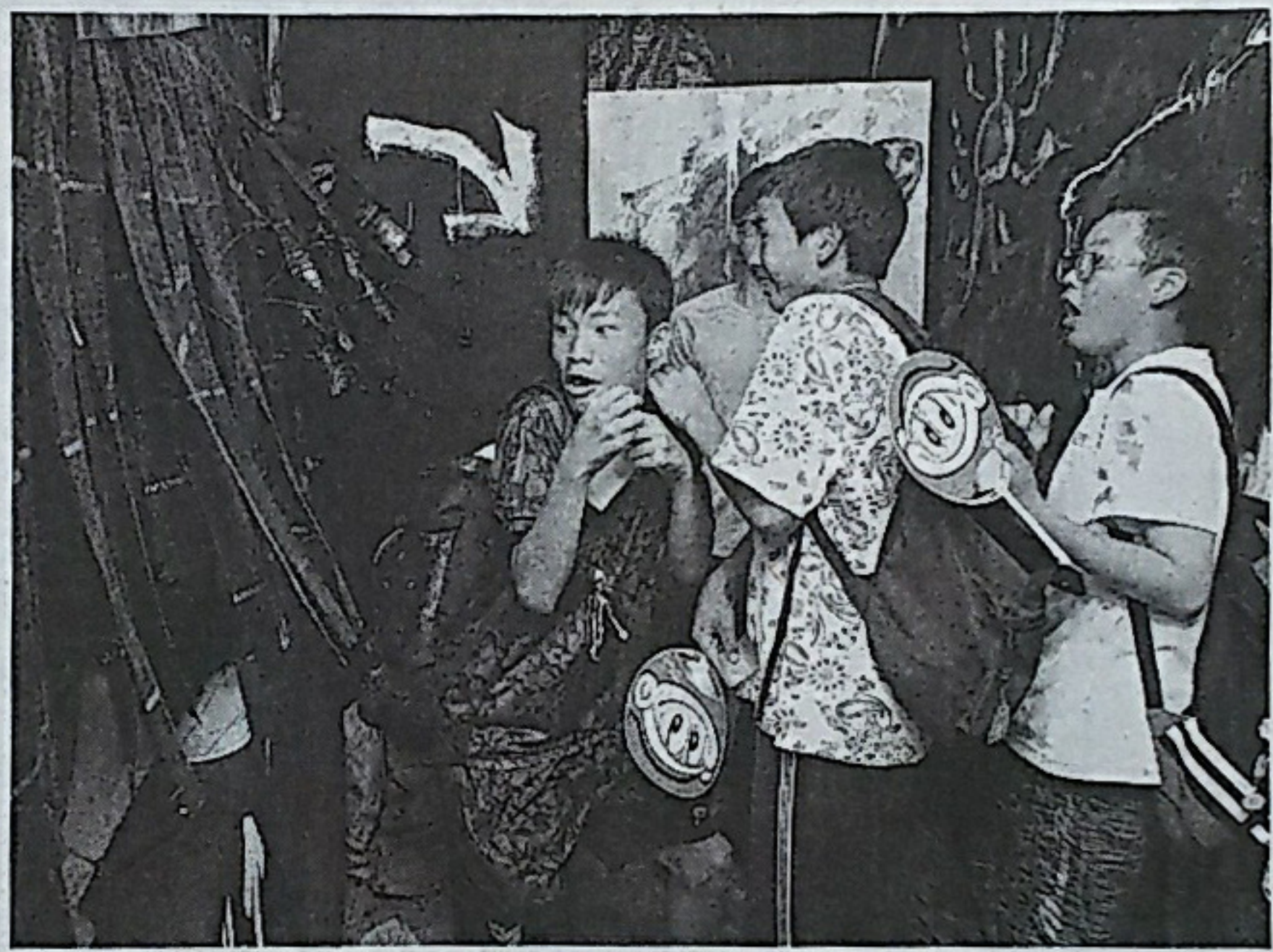
暑さ忘れ 来場者絶叫

とまこまい港まつり「JCお化け屋敷」

苫小牧青年会議所（JC）は5日まで、第63回とまこまい港まつりのメイン会場、市内若草町の中央公園でアトラクション「JCお化け屋敷」を開設している。メンバーや市民ボランティア計約80人が、建物内でお化け役の演技や効果音を演出。来場者の絶叫がこだましている。



JCお化け屋敷の演出で驚く来場者

JCでは、4月からメンバーやボランティアのアイデアを集め、昨年に続いてお化け屋敷の実施を決めた。今年は、学校の理科室、音楽室・保健室、トイレの三つの建物を用意。中を歩くと、暗闇から突然お化け役が叫んだり、「バンッ、バンッ」と壁をたたく大きな音が響く演出を用意した。恐怖で子供を中心に悲鳴が聞こえ、涙を浮かべる人も。

JCの丹治秀章理事長は「今年も市民と一緒に企画し、祭りに参加できてうれしい。夜の時間はコースを変え、恐怖感を高めている」と話した。

道地区大会へ、有志で美化活動

苫小牧ＪＣ 市内中心部を清掃

市中心部でごみを探すJCのメンバー

苫小牧青年会議所（ＪＣ）は19日、苫小牧市中心部で清掃活動を行った。9月7～9日に道内各地の青年会議所メンバーが苫小牧に集まり、活動を広く発信する第67回北海道地区大会苫小牧大会（日本青年会議所北海道地区協議会主催）に向けて、有志26人がまちの美化に取り組んだ。

ＪＣのＬＯＭ向上委員会（若林徹委員長）が初めて企画。参加者は約2時間、市道駅前本通や道道苫小牧停車場線などの道路沿いや歩道で空き缶やたばこの吸い殻などを拾い集めた。

ＪＣの玉川健吾専務理事は「市民に求められる青年会議所であるために、さまざまな問題に取り組んでいきたい。清掃活動は今後も継続できれば」と話した。

来月15―16日、たるまえサンフェス

小学生運営のカフェ出店

初の企画 生きる力身に付けて

苫小牧JC

苫小牧青年会議所（JC）の教育政策委員会（櫻田泰己委員長）は9月15、16日に苫小牧市樽前のオートリゾート苫小牧アルテンで開かれる「2018たるまえサンフェスティバル」で、小学生が運営する「子どもカフェ」を出店する。地域活動創出のモデル事業として初めて企画した。小学4～6年生40人程度を一般募集し、軽食を販売。子どもたちの生きる力を育むきっかけにしたい考えだ。

同委員会は今年度、「子どもの生きる力を育む地域」を目指して活動中。2月から3月にかけて市内で小中学生や親子などを対象にアンケート調査を実施。地域の大人と一緒に学習や社会活動を行う機会が多い子どもは自尊感情や自立行動、協調性などが高いという結果が得られた。

この内容を踏まえて例会などで活発に検討を進め、自主的に取り組むことで生きる力の育成につながる「子どもカフェ」の実施を決めた。

カフェ運営に向けては、市内の小学4～6年生を40人程度募集。事前のオリエンテーションで子どもたちが販売品目などを決めるほか、接客訓練も行う。また、15、16日の出店当日は各日20人ずつイベント会場に配置し、実際に接客や軽食の用意など店を切り盛りしてもらう。子どもたちを見守るボランティアスタッフとして、高校生以上の参加も呼び掛ける考えだ。

14年ぶり ＪＣ道地区苫小牧大会

「未来への道」テーマ 来月７～９日

フォーラムに東国原氏ら

苫小牧市で9月7、8、9日の3日間にわたり、日本青年会議所北海道地区協議会主催の第67回北海道地区大会苫小牧大会が開かれる。道内各地の青年会議所（ＪＣ）メンバーやＯＢら1600人超の参加が見込まれ、苫小牧開催は14年ぶり。人口減少などさまざまな課題に直面する中、「未来への道」を大会テーマに専門家らのフォーラムを予定。9日のメインフォーラムには元宮崎県知事の東国原英夫氏が参加し、市民も無料で傍聴できる。

ＪＣ運動を広く発信する地区大会は毎年道内の各地で開かれ、苫小牧では6回目。少子高齢化、人口減少などまちを取り巻く問題と向き合い、新しい道を切り開こうとの思いを込めて大会テーマを設定した。

初日の7日は、関係者が岩倉博文市長への表敬訪問や苫小牧市民活動センターで記者会見を開く。その後、樽前山神社で大会の成功を願う祈願祭や、グランドホテルニュー王子での結団式に臨む。

8日は苫小牧市民会館大ホールで「憲法確立」（午後0時半から）、小ホールで「北海道強靱（きょうじん）化」（午前9時半から）、「たくましい北海道創造」（同10時40分から）、「イノベーション」（午後2時10分から）の4テーマでフォーラムを開催。「憲法確立」のフォーラムでは、評論家の金美齢氏と気象予報士の半井小絵氏が講師を務め、憲法のありようを自ら考える重要性を呼び掛ける。

9日は、同じく市民会館でメインフォーラム（午前10時半から）を開催。東国原氏とロボットクリエーター高橋智隆氏が「今の日本に必要なもの何なのか」「どうすれば未来が明るくなるのか」について伝える。その後、苫小牧ＪＣの丹治秀章理事長らとのパネルディスカッションも行う。

フォーラムには市民も参加でき、事前の申し込み不要。定員は大ホール1600人、小ホール400人。

苫小牧ＪＣのメンバーで、2018年度地区大会主管実行委員長を務める阿部和法さんは「新しいことにチャレンジし、閉塞感のある時代を自分たちで打開する大切さを広く伝えたい。多くの方に参加してほしい」としている。

むかわ

炊き出し 焼肉100キロ提供

胆振東部地震

苫小牧と八戸のＪＣ

苫小牧青年会議所（ＪＣ）と姉妹ＪＣの八戸青年会議所（青森県八戸市）は14日、胆振東部地震で被害を受けたむかわ町の避難所、四季の館で炊き出しを行った。両ＪＣから16人が参加して、苫小牧の豚肉「樽前湧水豚」100キロを焼き肉にして提供した。

両ＪＣのメンバーは、同日午後2時30分ごろから、四季の館前で1000人分の豚肉を焼き、午後5時ごろ、避難者や地域住民に食事を提供する自衛隊やボランティアに調理した肉を引き渡した。

八戸ＪＣの田島理成理事長は「東日本大震災後、お世話になり、何かできないかと思い炊き出しに参加した。今後も復興に向けて協力したい」と話した。

苫小牧と八戸の両ＪＣは、約40年前から交流を続けている。今回、地震の発生後、両ＪＣで協議して初めて合同で炊き出しを行うことになった。7月に苫小牧市と八戸市が締結した交流連携協定「はちとまネットワーク」の一環という。

樽前湧水豚を焼く苫小牧ＪＣと八戸ＪＣのメンバー

「子どもカフェ」大人気

サンフェス会場で初企画

苫小牧ＪＣ

苫小牧市の小学生が15、16の両日、市内樽前のオートリゾート苫小牧アルテンで催されたたるまえサンフェスティバルで「子どもカフェ」を開き、クレープや飲み物を販売した。苫小牧青年会議所（ＪＣ）の教育政策委員会の事業で、2日間で計36人が店員として参加し、張り切って接客や調理をこなした。

子どもがさまざまな立場の大人や違う学校の子どもと関わり合いながら地域活動を経験する機会として、初めて企画された。子どもたちは事前研修で、販売する品目を決めるなどの出店準備に取り組んだ。

両日は晴天に恵まれ、催し会場には多くの来場者が訪れた。子どもカフェにも客が殺到。子どもたちは注文を聞いたり、お金をやり取りしたり、クレープや飲み物を作ったりと忙しそうに動き回り、店を切り盛りした。

苫米地心絆（ここな）さん（清水小4年）と曽賀太門さん（緑小同）は「初めての経験でどきどきするけど、たくさん売れるように頑張りたい」と元気いっぱい。同委員会の櫻田泰己委員長は「子どもたちが楽しんで参加してくれたのは何より。これからも委員会としてすべきことを考えていきたい」と話していた。

元気にカフェを運営する子どもたち

6:21
地震から4日目
避難所は
中継
厚真町
59

小学生が作って販売

14日「キラキラ☆子どもカフェ」

ココトマ

苫小牧市表町のまちなか交流センター・ココトマで14日、小学生が自ら作った飲食物を売る、「キラキラ☆子どもカフェ」が開かれる。ココトマが苫小牧青年会議所（JC）の協力を得て企画。参加予定の子どもたちは、当日販売するクレープや飲み物を試作するなど熱心に準備を進めている。

苫小牧JCの教育政策委員会は9月、市内樽前で開かれたイベント「2018たるまえサンフェスティバル」で子どもたちが自分で考案したクレープやジュースを販売する「子どもカフェ」を実施。さまざまな大人と交流する機会を子どもに提供し、多様な価値観に触れる中で生きる力を育む試みで、約40人が参加した。

子どもたちから「またやりたい」といった声が上がったことから、第2弾としてココ

JCメンバー（左）の協力でクレープを試作する子どもたち

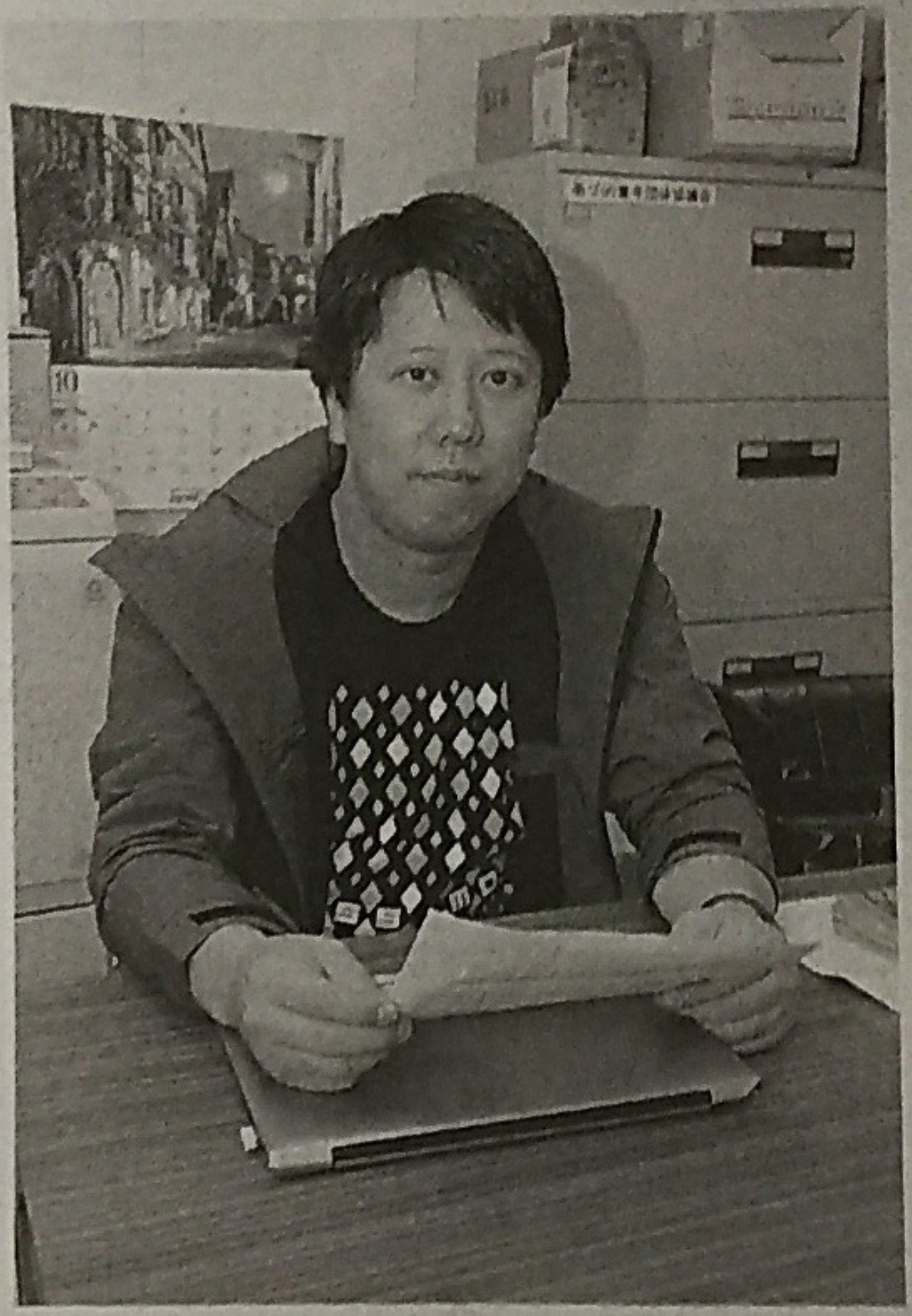
いろは A

ひとアプリ

JCの会員増やしたい

「苫小牧青年会議所（JC）の活動、主旨が市民に十分伝わっていない」と語るのは、JCで20年目で、これまでは港湾や観光などの委員会に所属してきた。今年度はJCの会員増加を目指す。

18年度拡大委員会の委員長を務める高橋銀次郎さん㊲。JCの会員になって3



25日には、活動の集大成となる講演会を苫小牧市内のホテルで開く。企業経営者や従業員向けの内容で、函館市を中心に展開するファストフードチェーンの創業者を招き、地域密着の考え方、会社と地域のつながりなどを講演してもらう。

学ぶことにより、知識が深まり、前向きな活力が生まれると考える。「苫小牧青年会議所の活動を知ってほしい。魅力を地域に発信していきたい」

女性が生き生き学べる機会に

女性の生き方、働き方を探求する苫小牧市民グループ「とまこまいiki×hata Labo（いきはたラボ）」を9月、仲間3人と共に立ち上げた伊藤輝美さん（51）。「女性たちが生き生きと学べるような場にしたい」と話す。

「地域で一番」目指す戦略

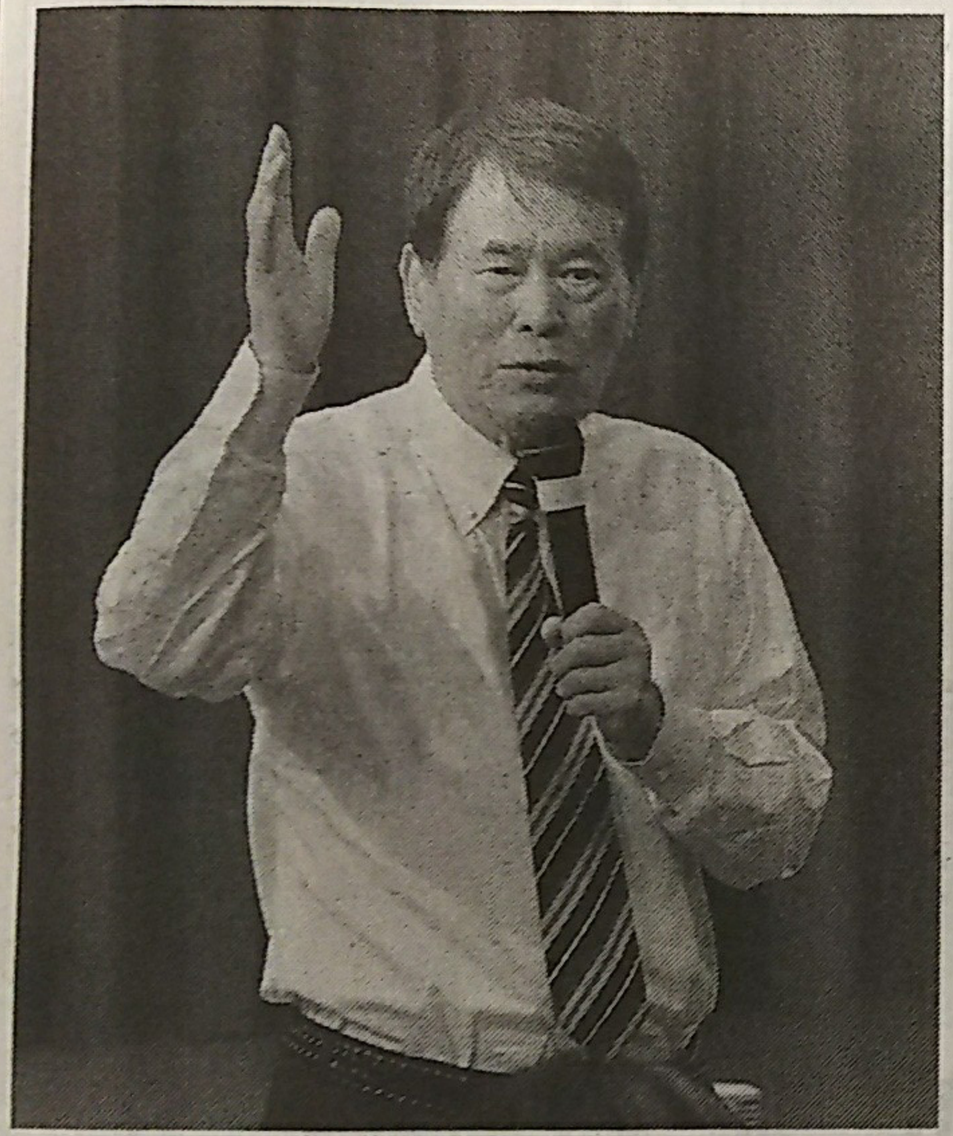
ラッキーピエロGr王会長講演

苫JC

苫小牧青年会議所（JC）は25日、苫小牧市内のホテルで講演会を開いた。道南地域でファストフードチェーン「ラッキーピエロ」を展開するラッキーピエログループ（函館市）の王一郎会長が「B級グルメ地域ダントツNo・1 パワーブランド戦略」のテーマで講演した。

JCメンバーや市民ら約200人が出席。講演で王会長は、函館市や近郊で人気のハンバーガーチェーン・ラッキーピエロの特徴として▽地元の食材にこだわる▽環境に配慮▽すべての店で自分が好きなテーマを決める―と3点を挙げる。世界的チェーンと競争するのではなく、地域で一番を目指す戦略を取り、「函館でひたすら一番になることを目指している」と話した。

長年経営者として活動する中、スマートフォンやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及が進み、消費者が店を選ぶ手段が変化していると指摘。「環境に適応することが必要。時代



「企業は時代への対応が大切」と話す王会長